総合診療医のための　絶食中の
入院患者血糖管理アルゴリズム（私家版）

絶食中の糖尿病患者
簡易測定器で**血糖4検**：毎食前（に相当する時刻）＋就寝前
血糖コントロール目標：**140～180mg/dL**

↓

全ての経口血糖降下薬を中止
全ての点滴中に10gにつき1単位の速効型インスリンを混注する

入院前インスリン治療中

基礎インスリンを開始し，必要なら修正インスリン追加
基礎インスリン
持効型インスリン：
グラルギン（ランタス®）
もともと使用していた単位数 または
0.2単位/kg/日，皮下注24時間毎（就寝前）

修正インスリン：血糖測定の度に評価
超速効型インスリン：
インスリンアスパルト（ノボラピッド®）
毎食前の血糖値により，以下に従う
BG　～179mg/dL → 皮下注なし
180～249mg/dL → 2単位皮下注
250～299mg/dL → 4単位皮下注
300mg/dL～ → 6単位皮下注

入院前インスリン治療中でない

修正インスリン：血糖測定の度に評価
超速効型インスリン：
インスリンアスパルト（ノボラピッド®）
毎食前の血糖値により，以下に従う
BG　～179mg/dL → 皮下注なし
180～249mg/dL → 2単位皮下注
250～299mg/dL → 4単位皮下注
300mg/dL～ → 6単位皮下注

↓

1日4回測定中3回以上で180mg/dL以上の場合，修正インスリンの調整を継続しつつ基礎インスリン開始

↓

基礎インスリン開始
持効型インスリン：
グラルギン（ランタス®）
0.2単位/kg/日，皮下注24時間毎（就寝前）

↓

修正インスリンの調整を継続しつつ，
1日4回測定中の最低値で基礎インスリンを調整

↓

基礎インスリン調整：1～2日毎に評価
持効型インスリン：
グラルギン（ランタス®）
BG　～ 69mg/dL → 半量に減量
70～139mg/dL → 20％減量
140～179mg/dL → 変更なし
180～249mg/dL → 20％増量
250～299mg/dL → 40％増量
300mg/dL～ → 60％増量

↓

血糖が乱高下して修正インスリンと
基礎インスリンの単位数が定まらない

↓

持続インスリンに変更

BG＝blood glucose 血糖値，*持効型インスリン グラルギンの皮下注はいずれの時間帯でも良い

Ver. 1.1，2015/3/7